

令和3年度 第3回 「知事と語る やまなしづくり」結果概要

対話テーマ: 重度心身障害者医療費助成の新たな仕組みの構築に向けて

県では、本県が目指すべき姿「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、知事が直接、幅広い層の県民と意見交換をすることで、県民が抱えている課題を把握し、その解決や新たな施策の立案等に生かしていきたいと考えています。

今回は、県が取り組む実証事業への参加者の皆様や支援団体の皆様と現状や課題について意見交換を行いました。

【日時場所】 令和3年12月27日(月) 午後1時30分から 県庁防災新館4階401・402会議室

【対話相手】 6名

(主な意見等)

- 医療費が時には多額になるので、スマートフォンで決済出来るのは助かる。是非続けてもらいたい。
- 薬代が大きな負担である。薬局でも利用できるようにしてもらいたい。
- 障害で働けないため収入が低い方も多い。貸与制度もあるがなかなか使いづらいため、スマートフォン以外でも負担のない簡単な方法を検討できないか。
- 視覚障害者はスマートフォンを持たない、持てない率が高い。凹凸のない画面の操作は難しいため入力サポートなど手厚く支援を頂きたい。
- 大規模災害時に透析情報がスマートフォンにあるのは有効である。窓口無料化にあたって国の想定する支障事案は生じないことを示し、様々な角度から取り組んでもらいたい。
- 親の立場からすると残された障害のある子の行く末が不安である。様々な立場の家族の声を行政の方などに聞いてもらいたい。
- 視覚障害者に実証事業に参加してもらって、使いやすさなどについての声を聞いて頂きたい。

(知事(県)の主な発言)

- 障害者の皆様が、スマートフォンが使えるようにサポート体制を構築していくことが重要であり、引き続き様々な観点から御意見を頂きたい。
- スマートフォンを持たない人のために専用スマートフォンを無料で貸与するなどして、実証事業を継続しながら、課題等を共有して進めていきたい。
- ICTの活用を更に進め、県内で行われているAIスピーカーの実証事業の成果も取り入れていくなど、障害者や高齢者の皆様の生活全般の利便性の向上に努めて参りたい。

